

## 良い雰囲気をつくろう

藤 嶋 昭

(東京理科大学)

6月初めセラミック関係の国際会議に招待され、イタリア・フィレンツェから汽車で1時間ほど行ったモンテカティーニという避暑地に行っておりました。その会議の始まる1日前にフィレンツェに泊まり、ルネッサンス時代の中心としての芸術の町を堪能しました。特に16世紀に活躍したこの地出身の3人の巨人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの作品群を楽しみました。また、ミケランジェロの亡くなった年に生まれた天才ガリレオ・ガリレイの墓のあるサンタ・クロチェ教会にも行き、その数々の偉業に思いをはせることができました。

数年前にパリに行ったときのことですが、オルセー美術館での印象派の名画の数々に感動しました。5階の最初の部屋にルノアールの数々の絵がありました。次の部屋は「日傘の女性」のクロード・モネでした。そして「自画像」や「星降る夜」のゴッホの部屋につづいていました。さらに進むとゴーギャンです。これらの名画がいつどこで描かれたのか。調べてみました。パリでほぼ同じときに描かれています。ルノアールとモネは同じ画廊で勉強したことがあるそうですし、ゴッホとゴーギャンは同じアパートに住んだこともあるそうです。16世紀初めのフィレンツェ、19世紀中ごろのパリは、芸術において特別の雰囲気があったことがわかります。

アインシュタインが3つの大論文を書いたのが1905年です。よく知られていますように、ブラウン運動の式、光量子仮説と光電効果の式、そして特殊相対性理論です。この当時のヨーロッパの科学の分野での雰囲気はどうだったのでしょうか。化学者ソルベーがベルギーのブリュッセルに、当時の科学者を集めてソルベー会議を何度か開いた写真が残っています。その写真を見ると、当時の科学分野の学者が20~30人集まり、すばらしい雰囲気のもとで討論がおこなわれた様子がわかります。芸術にとらず、科学の分野でも特別の雰囲気の中で、大きな発見や発明がなされたことがわかります。

2005年がこのアインシュタインの3大論文発表100周年を記念しての物理の年でした。私たちはアインシュタインの見いだした特殊相対性理論のおかげで、今では精度の高いナビゲーションの恩恵をうけています。さらに、太陽エネルギーがいかに大きいかも、アインシュタインの見いだした $E=mc^2$ で説明されています。1秒間に6億トンの水素がヘリウムに変化するエネルギーがもとになっています。この光エネルギーの22億分の1が地球にきていますが、それでも全人類の消費するエネルギーの1万倍です。私たちは今こそ、太陽エネルギーをさらに有効に利用する手段を研究し、より快適で安心できる世界をつくっていききたいものです。

良い雰囲気をつくることから始めましょう。